

農芸高校生徒が花壇づくり

28日、都立農芸高校（今川3-25-1）の園芸科学科の生徒が、JR阿佐ヶ谷駅前の花壇づくりを行いました。この花壇づくりは、農芸高校の教育活動及び社会貢献活動の一環として同校が毎年9月と11月に実施しているもので、葉ボタンやパンジーなど500株ほどが植えつけられました。

都立農芸高校は、およそ7.3万㎡もの敷地を有する農業高校で、農業生産や食品加工、環境保全など農業を中心とした幅広い知識や技能を学ぶことができます。園芸科学科は、各学年35名ほど全体では100名ほどが在籍しています。その生徒たちが協力して、土づくりや種まき、鉢上げなどを担って、年間を通して季節ごとの花の苗を育てています。



そうして育てられた花の苗は、農芸高校の直売所やイベント会場などで販売され、人気の商品になっています。また、野菜作りや園芸の魅力、そしてそのような人材づくりの場である農芸高校の教育活動をPRするため、平成13年に農芸高校は杉並区と「花壇づくりに関する協定」を結びました。この協定によって、毎年9月にペゴニアやテランセラなど晩夏の花を、11月下旬には葉ボタンやパンジーなどの冬の花を植えています。そのほかにも、都庁の都民広場の花壇づくりも担っています。



28日午前10時10分、作業着を着て集合した農芸高校3年生の生徒や教員など20名ほどが、阿佐ヶ谷駅の北口と南口に分かれ作業を開始しました。葉ボタンやパンジーなど500株を色の配列などを考えながら一鉢一鉢丁寧に植えつけました。これらの花は、これから春に向けて次々と花を咲かせ、駅利用者などの目を楽しませるといことです。

【問い合わせ先】

杉並土木事務所：03-3315-4178